

2024

5.15 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_vqTkD5tKRTWCjf97ruTaQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

持続可能な食料生産のための新しい道： マイクロバイーム農業と塩生植物の可能性

司会：錢 琨 准教授 (Q-AOS コーディネーター)



Key Words

塩生植物

環境保全型農業

食料生産

ファイトレメディエーション

不良環境耐性作物

マイクロバイーム農業

東江 栄 教授

九州大学 農学研究院 資源生物科学部門

九州大学で 1994 年に農学の博士号を取得しました。日本学術振興会特別研究院として農水省農業生物資源研究所にポスドクとして、光合成変換植物の研究とトウモロコシの遺伝子を高発現する遺伝子組換えイネを作出する研究に従事しました。1998年に佐賀大学に着任し、2000年にイネに関する研究で日本作物学会研究奨励賞を頂きました。着任中にオクラホマ州立大学およびネバダ大学にポスドクとして塩生植物の耐塩性機構に関する研究に従事しました。2010年に香川大学に移籍し、野生植物の農業利用に関する研究を行い2019年に現職に就きました。ごく最近、マイクロバイーム農業や植物による発電の研究を開始しました。

食料を生産するために、全世界の植生面積のほぼ半分を使い、人間が使う水全体の 90% を消費しています。それでもなお約 8 億人の食料が不足しています。近年の食料生産量の飛躍的な増大は、資材の大量投入によって成し遂げられました。しかし、その反面、水質汚染や土壌劣化等の環境問題を引き起こしました。私たちは、環境保全型農業、不良環境耐性作物の作成、不良環境耐性植物の利用、植物による環境修復等によりこの問題に取り組んでいます。今回は、環境保全型農業の一つであるマイクロバイーム農業と塩生植物の利用を中心に紹介します。